町の未来への指針。主要事業紹介

令和４年度の主な事業を紹介します。

みよしフォレスト・シティ構想(仮)
緑あふれる豊かな街並み

SDGsのゴールと連動した「第５次総合計画」やその関連計画として位置づけられている「都市計画マスタープラン」「緑の基本計画」などと整合を図り、「第６次総合計画基本構想」の柱となり得るプレ構想と位置づけ策定します。「政策研究所」を活用し、専門のアドバイザー、市民研究員や職員研究員を中心に取り組みます。CO2の吸収効果を高め、地球温暖化を防止するとともに、木々の緑あふれる豊かな街並み景観の形成を目指します。いも街道には、歩道拡張工事が完了したところに順次けやきを植栽し、総合拠点である役場周辺、公園、街路等公共施設に植樹をします。庁舎３階庭園を「(仮称) 憩いのオープンカフェ」とし、ベンチ・テーブルを設置し、憩いの場を創設します。

新型コロナウイルス対策
健康で安心して暮らせるまちづくり

新型コロナウイルス感染症は、今年度も、町内医療機関のご協力によりワクチン接種体制を維持し、３回目の追加接種と小児用ワクチンの接種を迅速に進めてまいります。今後も、新たな変異株の出現や感染者数の動向に注視し、予防対策を推進します。

トイレ改修・生理用品配置
豊かな学校生活を

学校施設の改修や修繕を実施します。主なものとして、三芳東中学校校舎西側和式トイレの洋式化と自動水栓を導入します。また、経済的な理由で生理用品を購入できない児童生徒のために、小中学校トイレに、生理用品を配置します。

国際交流
様々な分野や場面で交流

東京オリンピック・パラリンピック大会で、オランダ（女子柔道チーム）とマレーシア（パラリンピック選手団）のホストタウンとなった繋がりを活かし、スポーツだけでなく様々な分野や場面を通して国際的な交流や体験の場を設けます。

協働のまちづくり
三芳らしいあり方の検討

コロナ禍で活動が制限されている今日、協働のまちづくりのあり方も変化しています。「第６次総合計画」策定を視野に、今一度「協働」という住民参加の手法を再確認するとともに、三芳町らしあり方について、検討を進めます。

多文化共生社会参加支援
交流の場を

市民協働による外国籍の人へ生活に必要な通訳や役所窓口等諸手続への同行支援を実施。外国籍の人、障がいを持つ人等、様々な生活課題を持つ方々への理解と支援を募る相互交流の場として「多文化共生カフェ」事業を実施します。

子どもが自分らしく
多様なあり方を認め合う

子どもたちが多様なあり方を認め合い、自分らしく幸せに生きるために、「三芳町家庭教育宣言」～生命輝く！元気みよしっ子～を制定しました。今年度は、この宣言を基に、学校やPTAと連携し「命の授業」講演会を実施します。

豊かな学校給食
異文化理解を高める

オランダとマレーシアの料理を学校給食に引き続き取り入れることで、児童生徒の国際感覚や異文化理解を一層高め、町の豊かな食材「みよし野菜」を積極的に取り入れながら、季節によって特色ある献立を提供します。

スポーツの振興
スポーツに親しむ

みよし大崎ジュニアハンドボールチームの運営支援などを継続して実施します。総合体育館については、感染症拡大防止と利便性向上を目的にICカード化による「券売機非接触型入退室管理システム」を導入します。

芸術文化活動支援
豊かな文化を培う土壌作り

新たな芸術文化活動を支援するための「芸術文化活動奨励金制度」の創設、多くの人が参加し発表ができる場を作り若手の育成に繋げる「(仮称) 芸術文化祭」等を通して、生き生きとした魅力あふれるまちづくりを目指します。

よみ愛・読書のまち
読書の喜びを共有

家読、読み聞かせなどの読書活動が活発に展開される「よみ愛・読書のまち」をさらに推進させ、読書の喜びを共有できるまちづくりに努めます。また、読書イベント「オランダの絵本と音楽のひととき」を開催します。

子どもの貧困対策
貧困の連鎖を断つ

すべての子どもたちが育った環境に左右されないよう、必要な支援と環境を整備するため「子どもの貧困対策推進計画」を策定しました。これに基づき、誰一人取り残さない社会の実現のため、課題に応じた切れ目のない支援を行います。

母子保健と子育て支援
子育て情報の発信

昨年度から導入した電子母子手帳を活用し、対面による相談と並行しオンラインによる相談や動画配信など、様々な子育て情報の発信を進めます。また、3歳児健康診査では、弱視の早期発見を目的に屈折検査機器を導入し検査を実施します。

文化財の保護・保存
住民共有の財産

文化財は、住民共有の財産であり、町が歩んできた軌跡を知り将来の進むべき姿を導く重要な資料です。今年度は、かけがえのない文化財を将来にわたり保護・保存するため町指定文化財「旧島田家住宅」の茅屋根補修を実施します。